



工高タイムス

北海道旭川工業
高等学校新聞局
〒078-8804
北海道旭川市緑が丘
東4条1丁目1-1
発行人(局長)
稲留 駿斗
(電気科3年)

新入生 歓迎会

旭工の雰囲気を感じる

迫力のある部活動紹介

新入生歓迎会が4月13日の4～6時間目に体育館で行なわれた。初めに鈴木康礼校長先生と生徒会長の澤田宙陽君(電3)があいさつし、学校紹介と部活動紹介が行なわれた。

生徒会長の澤田君は「新しい制服に身を包み、始まる高校生活に期待と不安を抱いて

いる人も多いと思う。高校は自分次第で可能性を広げることができる場所だ。悩んだり、困ったことがあったときは一人で抱えずに周りの先輩や先生に頼ってほしい。これからの高校生活が実り多く、充実した3年間となることを願っている」とあいさつした。



柔道部の部活動紹介を見る新入生(手前)

局説

交通事故防止を

警視庁の自転車ポータルサイトに よると、全交通事故件数が減少する中で令和2～6年の自転車による交通事故は全国で7万件前後起きている。また、自転車対歩行者の事故発生件数は増加傾向にあり、歩行者が死亡または重傷となった事故は歩道上で最も多く発生しているという。

死亡事故になる場合も

北海道警察旭川方面本部管内では昨年、自転車絡み人身事故が77件

死亡事故になる場合も

発生している。特に危険なのが、自転車を使用する「ながらスマホ」

ため一人ひとりが交通ルールの厳守と安全意識をしっかりと持とう。

多くの資格を取る 新入生代表として宣誓 道下智也君(情1)



カレーライスが好き

入学式の新入生代表で宣誓をした。春休みに前教務部長の小椋山淳先生から連絡が来て、光栄なのでやろうと思った。私が宣誓に選ばれたことに、親とか周りからはとてもびっくりされた。本番では自分なりにちゃんとできた。この経験を就職や将来につなげたい。

旭工に入学した理由は両親から勧められたこと、パソコンやプロケラミングをやってみておもしろいと思ったから。そして友人も旭工を選んだのが一番の理由だ。これから多くの資格を取りたい。特に情報技術検定を今年中に取りたい。分からないことが多いので、今までなかった専門教科の授業が楽しみであると同時に不安でもある。知り合いの人に「工高祭が楽しい」と言われたので今から楽しみだ。部活動は中学校ではサッカー部に所属していたが、また決めていない。

局が作成した学校紹介の動画が流され、1年間の行事と部活動の様子が紹介された。その後、生徒会長の澤田君から生徒会活動についてパワーポイントを使って説明があった。休憩後、23の部・局・同好会が工夫を凝らして活動を紹介した。



2、3年生にお礼を述べる原田さん

最後に新入生を代表して原田綴さん(機1)が「新入生歓迎会を通して旭工の雰囲気

を感じることができた。先輩方にお世話になるが、旭工の一員として活躍できるように努力する」とお礼とこれから

の意気込みを述べた。原田さんは「全校生徒の前で話すのが初めてなので緊張した。バレーボール部の紹介が印象に残った。他の部はプレーをするが、バレーを見せずに強烈な印象を残したから、すぐにバレーボール部に入部した」と話した。

新入生歓迎会に参加した黒田礼斗君(情1)は「旭工のホームページで見た通りの部活動の雰囲気だった。図書局のボードゲームが印象に残った。ボードゲームが得意で、

本が好きなので図書局に入局した」と語った。塚本翔雲君(情1)は「先輩たちがハキハキしていて迫力があってすごかった。バドミントン部と野球部の部活動紹介が印象に残った。中学校にはなかった演劇部に入部した。役者ではなく、裏方の小道具や照明、音響などをやってみてみたい」と話した。

部活動に所属していない2年生2人に取材をした。兵藤みのりさん(電2)は「活動内容や活動日、それぞれの雰囲気まで伝わる紹介が多く、見応えがあった。卓球部の紹介が2、3年生のインパクトのある会話などから学年に関わらず遠慮なく話せるチームとしての良い雰囲気を感した」と話した。

益田琉希君(化2)は「印象に残ったのは図書局。実際に活動に参加して局員とボードゲームをしたが、皆仲が良く楽しい雰囲気でも良かった。アルバイトをしているので、部活動には加入していない」と話した。

歓迎会担当 矢三竜之進君 体育館内外の連携を改善する



歓迎会の司会をする矢三君

新入生歓迎会を担当した議会副議長の矢三竜之進君(電3)は「新入生が入場するときに体育館内と外での連携が取れていなかったのが、アドリブで対応することができて良かった。また、部活動紹介で5分を超えてしまったので早めに来年からは廊下側の担当者と

合図などを決めて準備ができただかどうか分かるように改善したい」と話した。

旭工に入学して1年が経ち、この1年間でたくさんの経験を積んだ。工高祭や工業化学科での苫小牧市にある出光興産(株)北海道製油所の工場見学、新聞局での全道大会、春季体育文化大会など、どれも印象に残っている行事ばかりだ。印象に残った思い出と今年度楽しみなことについて語る▼一番の思い出は工高祭だ。クラスステージと模擬店が印象的で、私のクラスステージではダンスを三つのグループに分かれて披露した。皆で練習を重ねて本番を迎えたときはとても緊張していたが、充実して達成感も大きかった。また、他のクラスステージを見るのもおもしろく、それぞれ個性があって楽しむことができた。模擬店では夏祭りのようにさまざまな食べ物が並び、どれもおいしく、学校にいながらお祭り気分を味わうことができた。今年の工高祭も思い切り楽しみたい▼今ももう一つ楽しみにしていることは見学旅行だ。まだ6ヶ月ほど先ではあるが、もう待ちきれない気持ちでいっぱいだ。これまで道内のさまざまな場所には行ったが、道外に出るのは今回で2回目になるため、また新しい景色や文化に触れるのにも楽しみにしている。観光はもちろん、グルメや遊びについても事前にしっかりと調べて悔いのない見学旅行にしたい▼これからの1年も、多くの経験を積んで自分自身を成長させていき、新しいことにも挑戦していきたい。(化2小寺)



工具箱

道交法改正 自転車の交通違反が厳罰化 ながらスマホ 反則金1万2千円

事故に遭わないため 守ろう交通ルール

道路交通法が改正され、4月1日から自転車にも「青切符制度」と呼ばれる交通反則通告制度が導入された。対象は16歳以上で高校生も含まれている。

交通反則通告制度は交通違反をした際に反則金を支払うことで刑事手続きに進まず処理される仕組みで、自動車と同じような扱いになる。今回

令和8年4月1日から
自転車の交通違反
「青切符」適用
対象 16歳以上

従来、自転車の交通違反については、刑事手続き(罰金等)で処理されてきましたが、反則金を納めることで刑事手続きに移行せず、最終する制度。

交通反則通告制度(青切符)とは

▼交通違反となる主な例▼

携帯電話の使用等(保持) 反則金:12,000円	車道の右側通行 反則金:6,000円	イヤホンの使用 反則金:5,000円	並進 反則金:3,000円
遮断路切立ち入り 反則金:7,000円	信号無視(赤色等) 反則金:6,000円	一時不停止 反則金:5,000円	無灯火 反則金:5,000円

北海道警察 (一財)北海道交通安全協会

交通安全講話

一時不停止で重大事故 ヘルメットの着用を

交通安全講話が4月15日1時間目に体育館で行なわれ、北海道警察旭川東警察署第一課の三浦広嗣課長が講話の中で自転車の交通違反について次のように話した。

近年、自動車による事故は年々減少している一方で、自転車の事故は増加している。自転車は手軽な移動手段であるが、道路交法では軽車両に分類されており、自由に道

路を走ってよいわけではない。ルールを守らずに運転することは、大きな事故につながる

の制度では、自転車の交通違反のうち113項目が対象となっており、反則金は内容によって3千〜1万2千円だ。自転車に乗りながら携帯電話を使用する「ながらスマホ」は1万2千円と高額になっている。また、信号無視や車道の右側を通行する逆走、歩道通行は6千円、一時停止無視

や無灯火、傘差し運転、イヤホンの使用などは5千円、二人乗りや並走は3千円だ。これまで自転車の交通違反は指導や警告で済まされることが多かったが、交通ルールを守らないことが大きな原因で自転車による事故が増加し、より厳しく取り締まられるようになった。

詐欺に注意 反則金は金融機関で

警察官をかたり、自転車の運転者に金を請求する詐欺が発生しているのに注意が必要だ。違反者には警察官から青切符と仮納付書を渡され、反則金を金融機関で支払うので、現金を渡すことはない。

違反に対しても厳しく取り締まりが行なわれており、違反内容によっては高額な反則金が科される場合もある。さらに、一時停止の標識は必ず守らなければならない。実際に一時停止を見落としたことで自動車と衝突する事故も発生している。こうした事故を防ぐためにも、基本的な交通ルールの徹底が重要だ。そして、ヘルメットの着用も大切である。自転車事故では転倒や衝突によって頭部を強く打つ危険があり、命に関わるケースもある。万が一の事故の際に身を守るためにも、ヘルメットを着用することが望ましい。一人ひとりが交通安全を守って生活してほしい。

建築科

卒業設計コンペティション工業高校の部

大友さんが金賞



卒業設計コンペティション工業高校の部(日本建築学会北海道支部主催)に3月に卒業した建築科の大友はなさんと若林海里君が応募し、大友さんは「Connect Tree」人といきものがつながらる場」で最高賞の金賞、若林海里君は「Ring」人と人をつなぐ」で銅賞を受賞した。旭工は5年連続で金賞を受賞した。

大友さんは日章小学校と7条緑道にはさまれた所にある駐車場に建設を想定。アウトドアショップやカフェなどが入り、動物と一緒に入れる建物で、災害時にはペットの動物とともに避難場所として利用できる。

大友さんは「全く取れると思っていなかった。受賞できてうれしかった。建築科の金賞連覇が途切れなくて良かった」と感想を述べ、「動物が好きでこのような建築物を設計した。動物たちと新しいつながりがあるほしい。犬や猫を保護施設から譲り受

けて飼っている。動物の処分を減らすために譲渡会ができ、事前に動物と一緒に宿泊できるような場所を考えた。散歩がてらに遊ぶこと、中庭のドックランで遊ぶこともできる。巨大な木があり、季節に合った装飾を施して何回来ても飽きないようになっている。

日章小学校と連携して宿泊研修や農作物をつくることもできる。模型は3か月かけてほぼ完成させ、さらに3か月で細かな手直しをした」と話し、先輩に「自分が頑張りたいこと、作りたいことをやればい」とアドバイスした。

ものづくり コンテスト

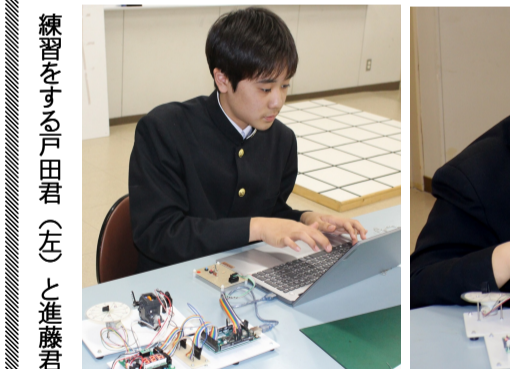
情報技術科 電子回路組立部門

はんだづけを正確に 練習の成果を発揮する

情報技術科2年生の進藤暖来君と戸田陸斗君は5月27日に苫小牧工業高校で行なわれる第26回高校生ものづくりコンテスト全国大会北海道ブロック大会電子回路組立部門に出場する。

競技内容は2時間半の制限時間内で基板に電子部品をはんだづけし、マイコンで制御基板上のモーターを動かしたり、ブザーを鳴らしたり、LEDを点灯させたりするプログラムを作成する。競技では基板のはんだづけの奇麗さとプログラムミスの正確さを評価される。練習では操作すること

で表示される数字に応じて、ブザーやモーター、LEDが作動するプログラムミスをしている。練習時間は毎日1時間以上。



練習をする戸田君(左)と進藤君

戸田君は「プログラミンが楽しかったので出場しようと思った。3年生でも出ようと考えている。本番ではプログラムを打つのが苦手なので、入力しているときに手が止まらないようにしたい。初めての大会で緊張するが、練習の成果が発揮できたらいい」と話した。